NGP協同組合、関東・東北豪雨の水害対策本部を設置 洪水の被害に遭われた皆様に 心よりお見舞い申し上げます 水没車引き取り等復興支援を 積極的にお手伝いいたします

9月9日から11日にかけ、愛知県知多半島から上陸し日本海へと北上した台風18号及び、日本の東海上を北上していた台風17号から流れ込む湿った風の影響を受け、線状降水帯が次々と発生したことで、関東・東北地方で記録的な大雨となりました。これにより鬼怒川で一部の堤防が決壊したため、特に茨城県常総市では床上浸水約4,400戸、床下浸水約6,600戸(9月24日時点、内閣府発表)に及ぶ甚大な被害が発生しました。

また、(一社)日本損害保険協会が発表しました9月14日時点の見込みを含む集計によれば、この大雨に関する車両保険の適用台数は8,433台、同支払保険金は33億4,388万9,000円に達する模様です。

この関東・東北豪雨に被災された皆様に、 心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い 命を落とされた皆様のご冥福をお祈り申し上 げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合では11日、茨城・栃木・群馬・埼玉・新潟県内に拠点を持つ北関東支部の組合員15社がいち早く対応策を協議し、当日中に被災車両の保管ヤード用地2ヵ所を常総市内に確

保しました。15日には水害対策本部を設置し、北関東支部に属する小林信夫副理事長((有)しのぶや みどり工房・代表取締役会長、栃木県那須郡)を本部長として、水没などの被害を受けた車両の引き取りをはじめとする復興支援を本格的に開始しました。

現地には北関東支部組合員15社の組合員各社がレッカー車を持ち込み、各ヤード内にフォークリフトも導入して、組合員幹部・従業員及びNGP協同組合本部職員が業務に当たっています。水害対策本部ではあいおいニッセイ同和損害保険(株)などからの依頼を受け、ディーラーや修理・整備工場、個人宅へ迅速にお伺いし、被災車両の引き取りを進めています。

引き取った車両の中には冠水し、所持品が残されたまま車両全体が泥で満たされたものも多く、抹消登録・届出に必要な車検証が水浸しになり確認が困難なケースも見受けられました。また、ディーラーなどでは店舗内に隙間なく被災車両が置かれ、個人宅ではレッカー車が保管場所までアクセスできないことも少なくありません。しかも水没してエンジンが始動不能となり、かつ近年の車両では



「災害救援車両 NGP」の札を掲げた北関東支部組合員 各社のレッカー車で引き取った車両は常総市内に設置さ れたヤード内へ運び、フォークリフトを使って連携ブレーで 素早く荷台から降ろされる

ATやステアリング、電子制御パーキングブレーキのロックを解除できないことも多いなど、引き取り作業は困難を極めています。

それでも復興支援に当たる全員が力を合わせ、心を一つにして取り組むことで、被災車両の引き取りは着実に進んでいます。訪問先では感謝のお言葉を頂戴し、飲料などをご提供いただくこともあり、組合員一同の大きな励みとなっております。

引き取った車両は北関東支部組合員各社が順次自社工場へ搬送し、外板など再利用可能なものは丁寧に汚泥を除去し脱臭した上でリュース部品として生産し、被災車両では特に難しくなるエアバッグ及びフロンの処理も適正に行いながら解体しています。

10月に入ってからも被災車両の引き取り 依頼が数多く寄せられているため、NGP協 同組合では引き続き水害対策本部を運営し、 復興支援のお手伝いへ積極的に取り組んで参 ります。皆様の温かいご支援ご理解を、心よ りお願い申し上げます。



ヤードに保管されたおびただしい数の被災車両。冠水した車両はルーフの上側にまで乾いた泥が付着している



大量の泥が残る車内から車検証などを回収。水浸しになっている場合は乾燥させてから確認作業に入る



損害保険会社からの依頼書に記載された内容と、引き 取った車両の車台番号などを照らし合わせ、誤りがない か入念にチェック

NGP協同組合、全組合員にスキャンツールを導入 全生産拠点のスキャンツールセミナー受講を義務化 故障診断の全社実施によるクレーム防止、 生産機会増加、販売拡大を目指します



NGP協同組合は、同組合員全141社へスキャンツールを導入するとともに、リサイクル部品生産におけるスキャンツールの活用方法をテーマにしたセミナーを開催し、NGPリサイクル部品の生産に携わる組合員全社・全拠点生産スタッフ1人以上の受講を義務付けることを発表しました。

次世代自動車が増加の一途をたどり続けている中、特にハイブリッド車などのモーターや駆動用バッテリー、衝突被害軽減ブレーキなどの先進予防安全技術搭載車両を点検・整備する際には、スキャンツールは今や必要不可欠なものとなりつつあります。

NGP協同組合ではこうした状況を踏まえ、スキャンツールによる点検を経たリサイクル部品生産に着手して製品品質を向上させるとともに、チェックランプが点灯する部品の原因をスキャンツールで究明・除去し生産点数の拡大を期するため、スキャンツールの積極的活用を推進することとしました。

なお今回のスキャンツール全社導入は、同組合が年間リサイクル部品売上高500億円を達成した記念と位置付けられており、(株)バンザイのスキャンツール・MST2000が全組合員に無償で贈呈されるとともに、セミナーの受講も無料としました。これにより、

現状で約4割に留まっているスキャンツー ル導入・利用率を100%に向上させます。

セミナーは10月より全国9支部で順次開催し、(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所の講師がリサイクル部品生産の観点から、スキャンツールを用いた故障診断、すでに不具合が発生している部品の原因究明、エンジンなどAssy部品で不具合が発生している場合の原因除去及び部品生産の方法などを、MST2000とトヨタ・プリウス(ZVW30)の実機・実車を用いてレクチャーします。

「車体整備の高度化・活性化に向けた対応 (中間報告)」 まとまる

超高張力鋼板対応スポット溶接機、汎用スキャンツール導入などを推進

国土交通省と日本自動車車体整備協同組合連合会(日車協連)、日本自動車補修溶接協会(JARWA)は、自動車新技術・材料に対応した適切な車体整備を実施するための方向性、施策を検討する「車体整備業の高度化・活性化に向けた勉強会」を昨年11月より開催し、このほど「車体整備の高度化・活性化に向けた対応(中間報告)」を公表しました。その中で掲げられた各取り組みの概要は別表の通りです。

今後、この取り組みの実現に向けた全体スケジュールを策定し、2015年度中に実現可能なところから随時実施していきます。また、引き続き残る課題の解決に向けた検討を

行い、これらの取り組みと連携させ、状況に応じて見える化のバージョンアップを図るなど、2016年度以降の取り組みについても検討する方針です。

一方で、中古自動車販売、自動車分解整備、 損害保険等の関係業界にこの取り組みを説明 し、コンセンサスを形成していく考えです。 さらに、これらの取り組みにおいては設備投 資が前提となるため、設備投資ができない車 体整備事業者等については、見える化工場と の連携やグループ化などの方策を検討し、組 織全体の活性化に配慮した対応策も検討して いくこととしています。

「車体整備の高度化・活性化に向け た対応(中間報告)」まとめ

機材・技術面での対応

(1) スキャンツールの活用

- ・車体整備作業に伴い、各種の安全装置などの初期 化や再設定のためにスキャンツールの導入の推進が 必要
- ・スキャンツールについては、汎用スキャンツール とすることが適当

(2) 超高張力鋼板の補修溶接

超高張力鋼板の補修溶接のため「適切な性能のスポット溶接機」の購入、「スポット溶接の溶接条件」、「フラグ溶接の溶接条件」などの技術情報を入手することが必要

(3) 技術情報の入手

自動車のボディ修理書などの詳細な技術情報については、車体整備事業者が適切に入手できる環境整備が必要

(4) VOC対策

VOC対策については、目標は達成されているところであり、継続的な取り組みを進めていくことが重要

高度化に向けた人材面での対応

(1) 車体整備士資格の活用

自動車技術の高度化に対応していくため、車体整備 士の増加を図るとともに、統一したカリキュラムや 研修実施体制を構築し、車体整備士資格保有者の継 続教育を実施

車体整備認証制度

車体整備認証制度の創設については、現状では充分 な事故データが収集されていないため、引き続き事 故データの収集作業を継続

高度化に向けた優良な工場の見える化など

(1) 優良な工場の見える化

優良な工場の見える化については、優良認定事業場や日車協連推奨工場などを対象とし、新たに「スーパーハイテン対応スポット溶接機設置事業場」(仮称)として個別に自動車ユーザーなどに明示する取り組みを2015年度に開始。また、2016年度以降は取り組みの状況を踏まえ、各般に渡り高度化への取り組みが進められている工場の見える化のあり方について検討を進める

(2) 車体整備記録簿の活用

車体整備記録簿については、車体整備士が署名する ものを基本とすることとし、車体整備事業場で一定 期間保存する方向での取り組みを進める

NGP 今月の CO₂ 削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成27年8月: **3,974t**



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成27年8月:

14.6t

※一般社団法人 日本自動車工業会が 1998年に公開している自動車LCA (ライフサイクルアセスメント) デー タをベースに、NGPにて1500cc車 両の部品重量調査結果からCO₂削減 効果参考値を算出しております。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO。排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

「ぱっと!くん」活用工場レポート

安価な自費修理ニーズの 増大に応えるべく リサイクル部品を活用した 見積りを短時間で作成し入庫増へ

(株)大洋モータース(山形県鶴岡市)

NGP協同組合では2014年11月より、かんたん飯金見積システム「ぱっと! くん」(あいおいニッセイ同和損害保険(株)共同開発)を、エコな整備・修理を提供できる優良な整備事業者を紹介するWebサイト「NGPエコひろば」(http://www.eco-hiroba.net/)の登録工場を中心に無償で提供しています。このコーナーでは、この「ぱっと!くん」を事故車修理見積りに利用されている整備・修理工場をご紹介します。今回は、山形県鶴岡市内を主な商圏とする整備工場・(株)大洋モータースの渡辺啓一社長を訪れ、「ぱっと! くん」及びNGPリサイクル部品の有効活用法についてお話を伺いました。

同社は指定工場として長年にわたり、鶴岡市内に住む一般カーオーナーの乗用車を中心に車検・点検・一般整備などを手掛けてきましたが、近年は新車・中古車の販売にも注力しています。同社が鈑金塗装の内製化に着手したのはちょうどその頃で、自社展示車両の補修から始まり、後に一般カーオーナーの事故車両を修理するようになりました。



「ぱっと! くん」チラシ

月間平均15台程度入庫する事故車両の大半はディーラーや保険会社を介さない直需で、かつ自動車保険を使わない自費修理という同社にとって、「ぱっと! くん」は導入以前から「非常に使いやすそうだという印象を抱いていた」といいます。

実際に「ぱっと! くん」を導入し活用し始めるとその印象はますます強まり、「カーオーナーが事故車両を持ち込み来店した場合も、10分少々お待ちいただく間に短時間で見積書を作成できる」ことに大きなメリットを見出しているようです。

2012年10月より始まった自動車保険等級制度改定の影響で、安価な自費修理のニーズは確実に強まっていますが、それは同社においても例外ではありません。少しでも総修理費を安くしてほしいと望むカーオーナーは多く、事故車修理でリサイクル部品を活用するケースは入庫台数の約6割にのぼっています。

そのため「ぱっと! くん」を用い、カーオーナーの目の前で概算見積りを提示する頻度は非常に高くなっています。特に、リサイクル部品を活用する場合は、概算見積りを提示した後、NGP組合員へ必要な部品の在庫有無を問い合わせ、当日中にリサイクル部品を活用した安価な修理が可能かどうかをカーオーナーに連絡するよう心掛けています。そうすることで、概算見積りを提示したカーオーナーの入庫率を約5割にまで高めることができました。

同社が商圏とする鶴岡市内は豪雪地帯のため、降雪後は低速での追突事故が多く発生す



修理見積書作成画面。新品部品での修理とNGPリサイクル部品を用いた修理、双方の総修理費が同時に比較できる





大洋モータースの鈑金塗装及び整備スタッフ

る傾向にあります。そうしたことから、「近年はボルトオン式のものが多く交換作業が容易になったラジエーターサポートなど、軽微な骨格修理の見積書作成に対応するようになると、今まで以上に幅広く活用できると思います」と、今後のメニュー追加などバージョンアップに期待を込めています。また、より安価かつ高収益な、リサイクル部品を活用した自費修理の提案を可能にするため、「ぱっと!くん」に収録される活用事例集の拡充も求めています。

日本海が近く、冬期は融雪剤の散布量も多い鶴岡市内では、特に低年式の軽自動車で、事故により塗装がはく離した個所や下回りなどが短期間の内に錆びるものの、それを気にせず乗り続けてしまうカーオーナーは少なくありません。「目先の利益ばかりではなく、先を見据えて信頼関係を築くことが重要」と考える同社では、「ぱっと! くん」を活用しながら、早めの修理をカーオーナーへ積極的に薦めています。その効果は、即効的ではないものの着実に現れ始めているようです。

時代の変化に合わせ新しいものを採り入れながら、地道な努力を怠らない同社の鈑金塗装事業は、これからも発展し続けていくことでしょう。



「ぱっと! くん」のトップ画面からはリサイクル部品に 関する動画の再生や保険料の試算も可能



NGP組合員かわら版



第24回初級営業マン研修会開催

営業活動の基本を 実践形式で体得

第24回初級営業マン研修会が9月4~6日の3日間、BumB(ぶんぶ)東京スポーツ文化館(東京都江東区)で開催され、全国の組合員営業スタッフの中から計11名が受講しました。

初日はNGPの理念、NGP各委員会の取り組み、自動車リサイクル部品業界の動向などを学んだ後、CS(顧客満足度)や苦情、購買動機に関する講義「商いの心」を受講しました。さらに「物を買うってなんだろう。サービスを受けるってなんだろう」をテーマにしたグループディスカッションを行い、2





営業会話のロールプレイ ングではお客様役を演 じた講師がアドリブを交 え、受講生に柔軟な対 応を求める一コマも

日目に具体的事例を各班が発表しました。

同日はさらに、名刺交換、身だしなみ、接客、電話応対、報・連・相など営業マナーの 実演及び演習が行われ、自動車整備業界の動向についても学びました。また最終日には営業会話の基本に関する講義とロールプレイングが実施されています。

そして修了式では、「悪魔の言葉 "出来ません、ありません、分かりません" は絶対に言いません」((株)辻商会、早﨑直人さん)、「営業活動を通じ自社をアピールし、新規開拓のお客様を増やして部品売上増加につなげ

ます」((株)金子商会、水江大さん)と、今後の営業活動に向けた決意を表明しました。

研修会終了後の感想として、(株)拓殖商会の亀井史彦さんは「講義では営業は断られてから始まるということを教わり、ロールプレイングでは講義で学んだ通りにできたこと、できなかったこと、自身の弱点を改めて知ることができました。受講した内容はすぐに実践できることばかりでしたので、帰社後の営業活動が楽しみになりました」と、新たに身に付けたスキルを活かしたこれからの業務に胸を躍らせています。

第9回初級生産管理者・フロントマン研修会開催

正確な知識に基づいた商品登録と販売提案の重要性を学ぶ



「クレームの多くはわずかな記載モレが原因で発生する」と、正確かつ過不足ない商品登録の大切さを説く佐々木講師

9月4~6日の3日間、BumB(ぶんぶ) 東京スポーツ文化館(東京都江東区)で、第 9回初級生産管理者・フロントマン研修会が 開催されました。初級生産管理者研修会に 44名、初級フロントマン研修会に16名が 参加し、初日には合同でNGPの理念、各委 員会の取り組み、自動車リサイクル部品業界 の動向に加え、NGPシステムの基礎知識と 運用ルールを学びました。

2日目と最終日は生産管理者とフロントマンとに分かれ、生産管理者はリサイクル部品商品化システムの流れ、品質基準の統一化、商品定義、車両入庫マニュアルの詳細を学習し、品質管理と商品登録を正確かつ厳格に行うことの大切さを学びました。

またフロントマンは、その基本理念、お客様対応の基本とポイントを学んだ後、受注納品管理帳表から自身の販売動向を分析することにより弱みや問題点を発見しました。さらに受注から商品の納品、売上計上までを実践形式でシミュレートしています。

最終日に行われた修了式では、「車両仕入れ価格が高く入庫台数も減少傾向にあるため、売れる部品は確実に商品登録していきます」((有)大友自動車工業、佐藤恭介さん)、「クレームから逃げず、ピンチではなくチャンスと思い、お客様から信頼していただける絶好の機会であることを意識し、お客様の要望を満足させる対応をします」(石上車輌(株)、高橋礼奈さん)と、生産管理者、フロ

ントマンとしての決意を表明しています。

研修会終了後の感想で、(有)しのぶやの本澤佳純さんは「今まで曖昧な知識のままお客様に商品をご紹介してしまう場面もありましたが、それがとても怖いことだということに気付かされました。正しい知識に基づきお客様に商品の状態を正確に伝えることが、フロントマン、会社、ひいてはNGPへの信頼につながることを理解しました」と、正確な知識に基づいた商品提案の重要性を学んでいます。

訃報

8月11日、岡崎車輌部品(株)(岡山県瀬戸内市) 代表取締役社長、岡崎晃様の御尊父・同社 代表取締役会長、岡崎壽(おかざきひさし)様 がご逝去されました。享年75歳。

9月10日、(有)ユービー宮崎(宮崎県北諸県郡) 代表取締役、倉内和寛様の御母堂、 倉内郁子(くらうちいくこ)様が ご逝去されました。享年85歳。

9月24日、(株)デック(福島県いわき市) 代表取締役、山下知昭様の御母堂、 山下ヤス子(やましたやすこ)様が ご逝去されました。享年86歳。 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■組合員情報変更

| 支部 | 会社名 | 変更内容 | 変更後 | 変更日 |
|-----|---------------------|------|--|--------------|
| 北海道 | 釧路オートリサイクル 株式会社 | 移転 | 〒088-0622 北海道釧路郡釧路町木場1丁目4番地 TEL 0154-64-1171 FAX 0154-38-3728 | 27年 9月7日 |
| 東海 | エコパーツ岐阜 株式会社 岐阜店 | 移転 | 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方114-1 TEL 058-372-3260 FAX 058-372-3270 | 27年 9月19日 |

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2FTEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209 http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201 http://www.ngp.co.jp/